

2026年 6 月 4 日 第2654回例会
6 月第 1 例会

RI会長メッセージ: UNITE FOR GOOD
「よいことのために手を取りあおう」

本年度会長テーマ
「ロータリーの友情を育もう」

「ロータリー親睦活動月間」

◆ 会長時間 ◆

小橋会長



6月に入り今年度も残すところ1か月を切りました。6月の月間テーマは「ロータリー親睦活動月間」となっています。年度の終わりが「親睦活動月間」というのは、ちょっと

疑問に思うところですが、1921年、スコットランドで開催された年次大会で、ポール・ハリスは「ロータリーの原動力は親睦です」と述べています。ロータリーにおける親睦は例会時に食事を取りながら、職業について話をしたり、相談、助言を求めたり、各委員会での取り組みを相談したり、世間の情勢や出来事について懇談することなどが本来の親睦とされており、また、同好会活動や家族会、気の合う会員が集まって会食することなども親睦の一環です。

趣味や宴会はfriendship（フレンドシップ）ですが、ロータリーの「親睦」の原語はfellowship（フェローシップ）です。フェローシップは、フレンドシップを超えた、もっと大きな概念で、みんなと仲良くできる自分になろうとするロータリーの本質である自己教育運動の根幹を成すものです。フレンドシップを超えてフェローシップを育むのがロータリーの「親睦」だと思います。

親睦と奉仕は、ロータリーの基盤とされています。私も今年度の会長方針に「ロータリーの友情を育もう」を挙げました。ロータリーソングには

「どこで会っても、やあーと言おうよー」という歌があります。会員同士の親睦を深め、他のロータリークラブ会員とも親睦を図り、地域社会全体で、ロータリーの目的である社会貢献が達成できるように声を掛け合いましょう。そして、会員全員で、仲間意識を持って、奉仕活動をしましょう。それでこそロータリーの精神だと思います。

📌 ロータリー財団「マルチプル・ポール・ハリス・フェロー襟ピン」の伝達

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー



第4回 児玉 裕志 君



第5回 荒谷 壽一 君

● 会務報告

山縣幹事

📌 ロータリーレートが1ドル159円（5月まで160円）に変更になりました。

📌 例会終了後、4階「アマリス」において6月定例理事会を開催いたしますので、理事会メンバーは出席願います。



● 委員会報告

※ プログラム・出席委員会

出席報告 木本君

本 日（6月4日・木曜日）

会員数 90名 出席者 81名

欠席者 9名 ご来客 0名

ご来賓 0名 ゲスト 4名

計 85名

4週前の例会2026年4月23日・木曜日

出席率 100%



※ 親睦活動委員会 中村(光)委員長

6月7日家族会の開催について

※ 職業奉仕委員会

新会員企業従業員を例会に招待しました。



住友生命保険(相) 菊地 秀典 君、川池 智恵子 さん

※ 地域・環境委員会

フォーラム（5月28日）のアンケート集計報告

令和8年5月28日の例会において、「西区の安全・安心の取組」をテーマに卓話が行われ、終了後に会員へアンケートを実施しました。回答者数は60名。以下にその集計結果をご報告します。

■ 卓話の感想（Q1）

今回の卓話「西区の子ども見守り活動について」に対する感想を伺ったところ、「大変参考になった」が36名（60%）、「参考になった」が21名（35%）となり、合わせて95%の会員が肯定的な評価を示しました。「普通」は2名（3%）、「あまり参考にならなかった」は1名（2%）にとどまり、本卓話が多くの会員にとって有意義な内容であったことがうかがえます。

■ 見守りジャンパー寄贈の認知度（Q2）

当クラブが長年にわたって「見守りジャンパー」を西区に寄贈していることについて、「よく知っていた」が44名（73%）と最も多く、「なんとなく知っていた」が8名（13%）でした。

一方、「今日初めて知った」と答えた会員が7名（12%）いたことも事実であり、この活動をクラブ内でさらに周知していく必要性も感じられる結果となりました。

■ 活動の意義への評価（Q3）

ジャンパーが地域の見守り活動に実際に活用されていることへの感想を尋ねると、「大変意義がある」が41名（68%）、「意義がある」が13名（22%）で、合計90%の会員がこの取組を高く評価しました。自由記述にも「地道な活動を続けていることに感謝」「地域に浸透していることを知り嬉しい」「素晴らしい活動だと思った」など、活動への共感と賞賛の声が多数寄せられました。

■ 今後の寄贈活動への考え（Q4）

今後も見守りジャンパーの寄贈活動を続けることについては、「ぜひ続けるべき」33名（55%）、「続けた方がよい」17名（28%）と、83%が継続を支持する結果となりました。その一方で「検討が必要」とした会員も7名（12%）おり、自由記述にはその理由として「毎年だと在庫がダブつくのではないかな」「数年に1度でもよいのでは」「在庫状況を確認してから寄贈してはどうか」「区役所の要望に沿って柔軟に対応すべき」といった具体的な提言が寄せられました。

■ 自由記述から（Q5）

自由記述には多くの意見が寄せられました。活動への感謝・評価の声に加え、「ジャンパーの使用実態を次回以降も報告してほしい」「このような卓話は定期的に行うべき」「ジャンパー以外にも地域へ貢献できることがあるのではないかな」「地域住民と行政が力を合わせて取り組むことが大切」といった、活動のさらなる発展を願う意見も目立ちました。

■ まとめ

今回のアンケートでは、見守りジャンパー寄贈という当クラブの長年の取組が、地域の安全・安心に確実に貢献していることへの高い評価が改めて確認されました。同時に、活動の継続にあたっては在庫管理や寄贈頻度について区と連携しながら柔軟に検討していくことへの期待も寄せられています。地域・環境委員会では本結果を踏まえ、今後の活動に活かしてまいります。

● 会員記念日

祝 6月お誕生日おめでとうございます。

(8名)

藤田(千)君 柳原君 大地君
荒川君 大植君 大谷君
上野(寛)君 長谷川(剛)君



● スマイルボックス SAA 高島君

村上(健)君

経済レポート5月5日号は、色紙から学ぶ人生訓の特集でした。その中に村上(健)君の色紙が取り上げられていました。

色紙には「心動」と書かれていました。心を動かすと書いて「こどう」と読むそうです。「仕事の面でも私生活の面でもまずは自ら心を動かし、元気を奮い起こし、停滞や沈滞を打破し、正直に、また勤勉に努め、自分自身や自分に関わる全ての状況を良い方向に進めていきたい」と語られています。

部谷君

5月14日の中国新聞に、ひろぎんホールディングスが広島県大崎上島町と、地方創生に向けた包括連携協定を結んだとの記事が掲載されていました。自治体とこのような協定を結ぶのは初めてとのこと。・ユニークな学校が集まる「学びの島」交流促進 ・地域経済の活性化 ・定住、移住 など計6項目が盛り込まれ、地域活性化や人口減少対策などに取り組まれます。首都圏などの企業のセカンドオフィス誘致や観光資源づくりも強化します。

そして、同日の日経新聞には、ひろぎんホールディングスの5ヵ年中期経営計画の連結純利益の目標を570億円から700億円に上方修正するとの発表がされておりました。

八條君(ダブル)

エイトホールディングスは、5月27日付で「寄付型私募債」を発行されました。

今後も、地域インフラの整備・維持を中心に、不動産事業や駐車場運営事業など幅広い分野へ展開し、グループシナジーを活かした事業基盤の強化と持続的な成長を目指します。寄付先は崇徳学園を予定されています。

櫻段君

本日、6月4日は虫歯予防の日です。口の中の衛生と健康のため、早期発見・早期治療・早期予防に努めておられます、さくら歯科医院 櫻段君をスマイルボックスにご招待いたします。

● スマンボックス

吉田(浩)君(金一封)

吉田(浩)君に、複数の方々からすまんボックスへのご推薦が届いております。

バイオレッツは5月30日～31日にかけて、福岡PayPayドームにカープ応援観戦を実施しましたが、吉田(浩)君は泥酔して多くの方々にご迷惑をおかけしたそうです。野球観戦は5回以降、爆睡だった吉田(浩)君。帰りの新幹線の車内では、ある物体の使い方を大声で披露されていたそうで、付き添い役の佐々木君が周りの方に頭をさげて回ったそうです。すまんボックスにご招待します。

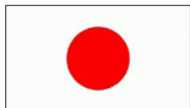


● 卓話予告

日時	テーマ
6/18(木)	理事会メンバー退任挨拶

私の留学の経験

ジャック



青少年交換受入学生 Jack Tyler Hampton 君



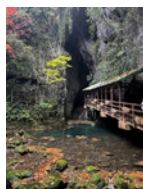
石井さんの旅行



広島空港で最初のホストファミリーに会った時のことを今でも覚えています。その時は、みなさんが話していることをあまり理解できませんでした。しかし、この家族はきっと良い家族だと感じました。今考えると、最初のホストファミリーが石井家だったことは本当に良かったと思います。日本語でうまく話せなかった時でも、身ぶりやひょうじょうで気持ちを伝えることができました。ホストマザーがよく使っていたので、日本手話も少し学ぶことができました。また、日本社会についても多くのことを学びました。警察官や特別しえん教育の先生から話を聞く機会があり、日本や世界の文化について新しい考え方を知ることができました。月日がたつにつれて、日本の生活や習慣にもなれていきました。

10月に石井家を離れましたが、春にまた戻ることを楽しみにしていました。今では、自分の考えや意見をしっかりと伝えられるようになりました。会話のほとんども理解できます。そして最近、「もうお客様ではなく、本当の家族の一人のようだ」と言ってもらいました。これは私にとってとても大きな意味があります。私は時々、自分がホストファミリーのふたんになっているのではないかと感じる場合があります。お金の面でも、人間関係の面でも、めいわくをかけているのではないかと心配していました。小さな失敗やごかいで周りの人にめいわくをかけてしまい、自分がかっかりしたことも何度もあります。今でもそういうことはあります。しかし、交換留学生以上の存在として受け入れてもらえたことを本当にうれしく思っています。石井家からいただいた経験をすべて話すことはできません。一緒に中国地方のさまざまな場所へ旅行し、その思い出は一しょう忘れません。福岡へ行き、「だざいふのじんじゃ」はじめ多くの神社をおとずれたことで、日本の歴史や文化への興味がさらに深まりました。広島でもたくさんの思い出があります。ひろしまフラワーフェスティバル、西広島のかぐらこうえん、吉田の春祭り、そしてホストファザーと一緒にバイクに乗ったことなどです。石井家との生活は、私の成長に大きな影響をあたえました。人として、そして交換留学生として成長することができたと思います。

桑田さんの旅行と写真



10月に石井家を離れた後、私は桑田家で生活を始めました。桑田さんとむすこのりょうくんが温かくむかえてくれました。家族のにんずうが少なくなり、生活のふんいきも変わりましたが、とても楽しい時間を過ごしました。りょうくんと過ごす時間は、実の弟との関係を思い出させてくれました。一緒にテニスをしたり、ゲームをしたり、

学校まで歩いたりしました。その中で、自分が兄であることを改めて思い出しました。桑田家で特に印象に残っているのは、出雲大社と山口県の秋吉台への旅行です。日本の神道の歴史だけでなく、美しい自然についても学ぶことができました。これらの旅行は交換留学の中でも特に大切な思い出です。



藤井家は、私が少しこどくを感じていた時期にささえてくれました。そのころはまだ友達が少なく、一人でいることも多かったです。交換留学生にとって、クリスマスやお正月の時期は特に大変だと言われています。しかし、藤井家のおかげでその気持ちを乗り越えることができました。どうねんだいの人たちと一緒に活動できたことが本当にありがたかったです。また、いとこやしんせきの方々とも会うことができました。たくさんの人と関わることで、いろいろなコミュニケーションの方法を学ぶことができました。山口への旅行、夜の黄金山、弥山登山、そして家族みんなで食べた食事など、たくさんの思い出があります。今でもクリスマスやお正月の時期に藤井家をたずねる機会があります。藤井家は、私が前向きな気持ちを持ち続けるために大きなささえになってくれました。



土井家は、交換留学の中でも特に大変だった時

期に私を助けてくれました。ロータリーの皆様と土井家のおかげで、新しいホームステイ先へうつることができました。そして、その環境の中でさらに成長することができました。翼くんや結希さんとの会話はいつも楽しく、日本語の勉強にもなりました。一緒に夕食を食べた時間は、短い期間でしたがとても大切な思い出です。1か月という短い滞在だったので遠くへ旅行する機会はあまりありませんでした。しかし、その分、日常の小さな出来事の大切さを感じました。友達が部活動で忙しかった春休みには、一緒にカフェへ行ったり昼食を食べたりするだけでも、とても楽しい時間でした。特に印象に残っているのは唐戸市場への旅行です。たくさんのしゅるいの食べ物を食べ、美しいけしきも楽しみました。その頃は桜が満開で、お花見も体験することができました。土井家にむかえていただいたことを本当にかんしゃしています。この家族がいなければ、私の交換留学は全く違うものになっていたと思います。

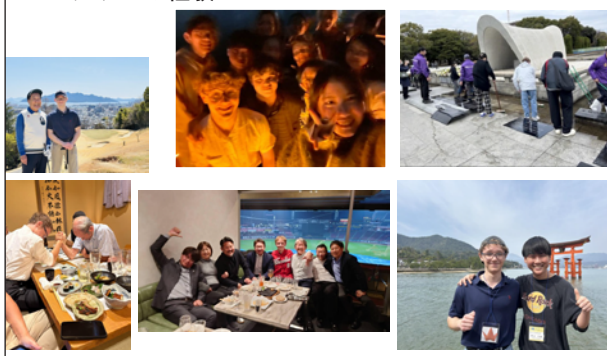


私は学校でさまざまな部活動に参加しました。これまでに6つの部活を経験しましたが、特にソフトテニス部と料理部でせっきよくてきに活動しています。私はこうしきテニスをしていましたが、日本でソフトテニスを始めることができてうれしかったです。後輩たちを手伝うことも楽しく、スポーツは心の健康にも良い影響をあたえてくれました。料理部では毎週クラスメートと一緒に日本料理を作っています。また、台湾から来た留学生と一緒にわがしを作る機会もありました。先月、向陽高校の2年生はおのみちへ修学旅行に行きました。耕三寺や周辺のお店を見学し、みらいしんの丘もたずねました。そこで、げいじゅつさくひんやじいんの歴史について学ぶことができました。

しゅうだいきょうそう高校のインターアクトク

ラブに参加したことで、広島のちいき社会にこうけんする機会をたくさんいただきました。ロータリークラブの皆様と一緒に平和記念公園の池をせいそうしました。この活動は、平和への願いという大切な意味があるため、とても意義深いと感じました。また、英語を学んでいる人たちをサポートする活動にも参加しました。外国人へのインタビューを手伝い、自然な英会話の練習や自信をつけるお手伝いをしました。さらに、広島ของがいにあるしょうがいしゃしえんせつでお祭りのうんえいも手伝いました。ロータリーの目的は、人を助け、ちいき社会にすることです。私はこのクラブが学校や生徒たちに良い影響をささえていることを素晴らしいと思います。

ロータリーの経験



最初の例会の前はとてもきんちょうしていました。しかし、一度参加してからは毎回楽しみになりました。こうえんの内容は難しいこともありましたが、最近では大切なポイントを理解できるようになりました。日本で話される内容の多くは、私のぼこくで話されることともきょうつうしていると感じます。そして、日本のロータリーでは食事がとてもおいしく、お小遣いもいただけるので、それも楽しみの一つです。また、特別な例会にも参加しました。日本でゴルフをした経験は、帰国後も友達に自慢したいと思います。ただし、スコアは秘密です。今日ここにいる皆様とも、多くの旅行の思い出をきょうつうすることができました。インターアクトクラブと一緒に山口県にいき、ほ

うふてんまんぐうやもうりしていえんを見学しました。また、さんけんごうどうとうきけんしゅうかいでは岡山県倉敷市をたずねました。この旅行では英語を話せる人たちと出会い、初めておんせんに入り、こうらくえんもたずねることができました。とても楽しい思い出です。

最後に、今日この場にいる皆様へ心からかんしゃを伝えたいと思います。皆様がいなければ、私はこの一年間を日本で過ごすことはできませんでした。また、本日参加できなかったホストファミリー、友人、そして世界中のロータリアンの皆様にもかんしゃしています。ロータリーのりねんは、人々が協力し合い、より良い社会を作ることです。ロータリーは世界中の何百万人もの人々に機会を与え、ほうしとゆうじょうの大切さを伝えてきました。日本での生活とロータリーでの経験を通して、私は新しい考え方を学び、自分のかちかんを見つめなおすことができました。この部屋にいる皆様は、人を助けたいというきょうつうの思いを持っています。自分のりえきだけでなく、周りの人やちいきしゃかいのために行動しています。そのような活動をつうじて、私たちは成長することができます。そして今日、私がどのように成長したのかを皆様にお伝えできたなら、とてもうれしく思います。本当にありがとうございました。



広島西RC

検索

例会日・木曜日 12:30~13:30
 例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
 会 長 小橋 敏幸
 幹 事 山縣 浩一

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
 リーガロイヤルホテル広島13F
 TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
 E-mail: hwrc@godorc.gr.jp
 作 成・会報雑誌・広報委員会